

長崎外国語大学・長崎外国語短期大学だより

# WWぶどうの樹



発行者 長崎学院  
 企画・編集 総務課企画広報係  
 〒851-2196  
 長崎市横尾3-15-1  
 TEL095-840-2000(代)  
 FAX095-840-2001  
 kikaku@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp



2008年11月22日(土)、本学ホールにて「第1回長崎外大英語ボキャブラリーコンテスト」が開催されました。これは、今春よりスタートする「現代英語学科」の新設記念行事として行ったもので、一朝一夕には身につかない英単語の学習を支援したいという願いのもとに企画致しました。対象は高校生で、県内外の高等学校から63名が出席し、「優勝」を合い言葉に熱戦が繰り広げられました。

1チーム3名で、全部で21チームがトーナメント形式で対戦しました。女子または男子だけではなく、男女混合チーム、あるいは、別々の高校に通う友達からなるチームなどその形態は様々でしたが、それぞれのチームで話し合って決めたチーム名を掲げ、コンテストに臨みました。ちなみに、準優勝した長崎県立諫早高等学校・長崎日本大学高等学校の混成チームは「スリーグリフィンズ」というチーム名で参加してくれました。

本コンテストでは、全部で21

の「試合」が組まれていたのですが、どの「試合」も白熱し、接戦もかなりありました。「試合」の内容を簡単にまとめると、次のようになります。

① 本学外国人教員が読み上げる英単語の定義文(例えば、*large motor vehicle carrying passengers by road*)を聴き、その意味を理解する。

② その定義文に対応する単語(この場合は *bus*)をステージ上に設置されたパソコンに打ち込む。

パソコンに入力された単語は会場内の大型スクリーンに映し出されますが、審判が正しいかどうかを判定し、正解なら1点が得点板に表示されます。

相手のチームより高い得点をとったら勝ちですが、定義文の内容理解や綴りの確認でこずつたりする場面も見受けられました。瞬時に英語を



理解し答えを出さなければならなかったのです。スリリングな面もあったと思います。それにしても、3人のリスニング力と語彙力を結集させ、必死になって答えをだそうとする姿はとても印象的でした。

接戦が続き、なかなか決着がつかなかったり、また、機械的なトラブルで、当初予定していたよりコンテストの時間が長くなりました。しかしながら、点数がスクリーンに示されるたびに会場からは大きな拍手がわき、「試合」ごとに出場者と観客の一体感が強くなっていったようです。最終的には、熊本県立大津高等学校の「未完の大型おんず」チームが栄冠を勝ち取りましたが、すべてのチームがベ

ストを尽くしてくれました。出場者全員に敬意を表したいと思います。

英語に限らず外国語の学習において苦勞するものの一つとして語彙力のアップが挙げられます。一般的に言う「単語の学習」は個人レベルで行うものと考えられますが、今回のボキャブラリーコンテストを通して、個人レベルを超えたところにも語彙学習の場があることを示すことができたのではないかと思います。

コンテスト出場者は、友達と力を合わせながら語彙を学ぶことの意義や楽しさを自ら経験したわけです。リスニングをも取り入れたゲーム感覚の語彙学習はきつと新鮮だったことでしょう。また、なによりも、対戦相手の語彙力を知り、大いに刺激を受けたことでしょう。本コンテストをきっかけに個人レベルの語彙学習に一層の弾みがつけばこれほど嬉しいこととはありません。英語の語彙力がさらにアップしていくことを祈っております。

最後になりましたが、本コンテストを支えて下さった皆様の方に対して、この場をおかりして改めて厚くお礼を申し上げます。ありがとうございます。

(第1回長崎外大英語ボキャブラリーコンテスト実行委員長 川島浩勝)

2008年度(8月以降)寄付者名簿

学校法人長崎学院が行う  
教育事業充実のための寄  
付者名

藤末守信 50万円

末長幸子 30万円

出口すゝ美 2万円(2回計)

(敬称略)

物品等寄贈者名簿

前号に掲載いたしました  
昭和38年度卒業生による  
「梅の木」寄贈者の名簿に  
「吉村敏治氏」のお名前が  
漏れておりました。また  
清水富士夫氏は昭和37年  
度1部の卒業生です。お  
詫びし訂正して、本号に  
再録させていただきます。

一・梅の木 5本

井川清澄、梅枝ヨネカ、

沖崎千藏、片山伊勢男、

桑原清弘、中山敏雄、吉

村敏治(以上7名、長崎

外国語短期大学 昭和38

年度2部 第8回卒)

清水富士夫(長崎外国語

短期大学 昭和37年度

第12回卒)

池田紘一(学長)

(敬称略)

あの人は今

昭和41(1967)年度  
第11回卒業生

播重 豊さん  
堀口士郎さん

前号に引き続き、約40年前の短  
期大学第2部卒業生のお二人と  
長崎学院土井事務局長との鼎談  
形式の座談会を紹介いたします。  
お二人は実業界や公務員の世界  
で活躍され、現在もその経験  
を活かし社会に寄与し続けてい  
らっしゃいます。後編では、後  
輩へのメッセージや大学の未来  
についてお話を伺いました。

「第一ホテル両国」25階の  
レストラン「さくら」の一室  
にて取材

〔後編〕  
後輩へのメッセージ

土井 大学と短大で学ぶ後輩  
学生にメッセージをお願いします。

播重 会社にとってはいかに  
仕事をこなせるかがどうして  
も大事になってきます。英語  
はあくまで手段でしかない。  
仕事に対する知識、営業なら



堀口さん(左)と播重さん(右)

受注戦略の立て方、資料のま  
とめ方とか、要するに与えら  
れた仕事を工夫してうまくこ  
なさなければいけない。それ  
から、今の学長も言っている  
ように語学力とともに人間力  
の養成は非常に大事です。そ  
れは一般教養であり、日本文  
化に関する知識などの側面が  
あります。外国人のお客さん  
相手に観光案内をする。そう  
するとなかなか言葉が出てこ  
ない。いかに自分の歴史認  
識がないかを痛感しました  
ね。海外にいた経験では、特  
に欧米人は自分の国の名所旧  
跡については実に饒舌に話せ  
る。本当に感心しますよ。あと  
私は高校卒業してすぐから40

数年サラリーマン生活をして  
います。ただ入った会社で  
は、有名大学の出身者がたく  
さんいて、競争しなきゃいけ  
ない。多いときは7万人くら  
いの規模でしたが、なかなか  
大変なところだった。でもい  
ま考えてみると、そういう同  
僚に負けてなかったなと思っ  
ます。言いたいのは大学での  
成績は、それが会社の社員と  
しての仕事の成績にはならな  
いということ。大学はスポー  
ツばかりして、勉強の成績は  
落第しない程度で卒業したと  
しても、会社に入ってバリバ  
リ活躍する人はたくさんいま  
す。その人はやっぱり精神力  
がしっかりしている。結局成功  
するのは努力している人です。  
堀口 一つは社会性を身につ  
けてほしいということ。日本  
の出来事だとか世界の動きを  
学んで自分の活躍する場を広  
い視野で捉えて、色んなこと  
を大学時代に勉強しなきゃだ  
めだと言いたい。二つ目には、  
長崎で学んでいる優位性を感  
じてほしい。長崎は日本の中  
世から現代史で中心的な役  
割を担ってきました。長崎で  
学び、長崎の歴史を知ってい  
るのは社会に出てとても役立  
つ。だからもっと意識して勉  
強してほしいですね。それか

ら三つ目に、国際公務員や外  
交官などを目指すくらいの気  
概を持って、世界に活躍する  
イメージを描いてほしい。た  
だ知り合いの審議官の話では、  
もっと日本人が心を鍛えない  
と国際的に通用しないと  
言っていました。成果を自分から  
PRするくらいでないと。だ  
から学生たちには、特に国際  
公務員や外交官を目指すなら  
ば相当なたたかさを語学と  
一緒に身につけてほしいです  
ね。

【大学の未来について】  
土井 大学という高等教育機  
関では、現在様々な理由から  
改革が求められています。お  
二人の経験の中から感じられ  
る本学や大学教育一般への意  
見や希望などを語っていただ  
けますか。

堀口 卒業生のネットワー  
ク作りをぜひ進めてほしいです  
ね。例えば大阪、東京、福岡  
で軸になる人を作って会を設  
ける。それと、最近難しい  
けども同窓生の名簿をもう少  
し整理してほしい。卒業生や  
その配偶者の方にもっと活  
躍している人がいると思いま  
す。そのために同窓生情報  
が重要になる。それから保護者  
会。大学の取組や卒業生のこ  
とが口コミで伝われば、九州

内の保護者に強くアピールすることになると思います。とはいえ、僕らの時代から比べたら、施設は充実しているし、今の学生は恵まれてるよね。  
**播重** 大学在学中に留学生との交流とか留学とかかなり実践的なことをやって、なかなか他の大学ではここまでできないですね。九州では非常に珍しい語学に特化した専門性の強い大学だと思います。  
**堀口** やはり縁のある学校だから、社会的な評価を上げて欲しい。20、30年後にネットワークが広がるのを構想するのが大事です。

**播重** 私も社長からぜひ英語を話せる人間をと言われていて、学校案内を見ていたら卒業生の進路に「名村造船」の名前があったね。名村造船は実は今勤務の会社の親会社でもあるし、卒業生もいる、ぜひ同業種として後に続いてもいい。長崎外国語大学は、九州の人が多いと思うけれど、若い人はあまり勤務先なんかにこだわらないでほしいね。  
**土井** 大学のキャリア支援も、現役先輩がいてこそ話ですからね。  
**播重** それと今かなりの数の三菱重工OBが、大学の講師、短大の講師、専門学校

の講師になってます。これは一つは実践教育ですね。だから会社の中を良く知っている人を選ぶ。学校の先生方だと経験がないから難しい。退職した人たちが大学の教育に参画するのは、非常にいいことだと思います。英語教育で言えば、私の経験から入社後いくらかでも専門用語を含めて勉強する機会はある。だから大学では、せめて世界の出来事を英語で書いてる英字新聞を読めるくらいまで教育してもらいたい。これだけ英語を経験していても完全には読めないですからちょっと難しいですけどね。一旦商売から離れて、相手の人と一緒に食事したりすると、仕事の話より、一般的な、例えば経済とか、日本で今起こっている出来事とかの話が話題としてでます。それが難しい。それで経験上、英字新聞を読めるようになれば表現力もつくと思うんですね。  
**堀口** そういうふうには外国の視点で日本を見る。これは大きな財産ですよ。狭い地域の視点ではなくて、東京や函館に出て、それからまた世界という視点から見ると、そういうのを見ずして学生たちが長崎から世界を見ておくのがい

と思うんですね。それから、スキルアップをはかる旅程管理主任者などを考えるときに、合格して就職して活躍した人たちの姿を先輩にもっと見せながらいけばいいんじゃないかな。そこでの努力がさらに卒業したあと、播重さんが強調するように厳しいことがあってもがんばって、いつ

の間にか階段を3段も4段も上っていく。  
**播重** 学校で得たもの以上のことを社会で得ていく。英語というのはそのため手段の一つでしかないということかな。  
**堀口** まあ、学校が80周年を迎えるくらいまでは長生きしたいなど。あの時両国であんなことを話したけれども、これまでできたかと思えるといいですね。  
**土井** ありがとうございます。座談会の会場としてご協力いただきました。「第一ホテル両国」25階のレストラン「さくら」様に心より感謝申し上げます。  
 て生きています。  
 「神様、私の人生の1秒でもあなた以外のことで使われることのないようにしてください。私は、主よ、あなたのものですから。…」  
 ほらね、私がこんな事を言うなんて、やっぱり神わざでしょ？  
 神の祝福と平安を 折りつつ  
 シヤローム 麻生瑛子

昭和48(1973)年度  
 第23回卒業生  
 麻生瑛子

宗教の時間に、欠伸ばばかりしていた私が、クリスチャンになるなんて、まさに神様です。  
 牧師の夫と共に教会を開拓し、教会学校の教師を務め、礼拝後の食事を整え、祈祷会をリードしているなんて…。  
 信仰深き夫といとおしい3人の子供たちとの愛に溢れた幸せな日々…。  
 劇団を創立し、一人芝居「マグダラのマリア」を創作し、演じ続け、海外公演も含め、100回以上も重ねて来たなんて…。



昨年、殉教の地、被爆の地、そして我が学生時代をすごした懐かしい長崎にて公演が実現し、元長崎外大演劇部のメンバーや企画広報の吉永さん、

「マグダラのマリア」は、一女性の半生を描いた芝居ではありません。キリストの十字架と復活と再臨がテーマです。全てを神の御手にゆだねて、私はただ神の御手の中で用いられる器となって、神の御計画がどう展開していくのかを楽しみながら。一瞬一瞬を平安と喜びに満たされ



# 語学コンクール報告

## 第8回全国ドイツ語スピーチコンテスト

2008年10月25日(土)に「第8回全国ドイツ語スピーチコンテスト」の本選が行われ、ドイツ語ドイツ文化コース3年の外輪康宏さんが3位(優良賞)に入賞しました。外輪さんは昨年度もチャレンジ賞を受賞、2年連続の入賞です。今年のタイトルは「五島の漁師」。故郷の福江で漁師として働く伯父さんの生活を紹介し、その厳しさを訴えました。いつか日本とドイツの掛け橋になり、五島の漁師を助けたいと、未来の夢でスピーチを締めくくっています。来年度もさらにドイツ語を磨き、再度コンテストにチャレンジの予定です。(コース主任 山口慶子)

## 第21回初心者のための九州フランス語コンクール

学習暦2年以内の初心者を対象にしたフランス語のコンクールが2008年7月6日(日)に別府大学で実施されました。6名の試験官による審査の結果、以下の本学フランス語フランス文化コース2年の学生が1位から5位まで入賞しました。1位は主催者賞でパリ行き往復航空券、2位はフランス大使館賞でフランスの好きな研修

地での1ヶ月の語学研修が受けられるという豪華な副賞がついています。賞の順位にかかわらず、本学から出場した学生は、全員真剣にスピーチに取り組み、学習意欲が大いに感じられました。2009年度の本コンクールは7月5日(日)に本学で実施の予定です。

入賞者 1位 吉村光太郎、2位 山中唯、3位 入来綾香、4位 松重詩乃、5位 安田佳代 (コース主任 阿南婦美代)

## 第43回全日本スペイン語弁論大会

スペイン語スペイン文化コース3年生の堀佳代さんが2008年9月27日(土)に東京で開催された日本スペイン協会主催の「第43回全日本スペイン語弁論大会」において、全国から予選を勝ち抜いた12名の中から見事第一位にあたる高円宮杯を受賞しました。



堀さんは2007年9月から半年間スペインのサラゴサ大学へ留学した時のエピソードなどを織り交ぜながら「ホスト

マザーから受けた愛情」と題しスピーチ。この留学で堀さんの語学力は驚異的に伸びたことは確かですが、加えて一年生の時からクラスメートと行う口頭練習での集中力も目を見張るものがありました。生れながらの能力に、日々の鍛錬で成し遂げた快挙だと思います。これからの成長が楽しみです。(コース主任 田村美代子)

## 優秀学生顕彰事業

日本学生支援機構主催平成20年度優秀学生顕彰事業において大学4年スペイン語スペイン文化コースの増留愛香音さんが奨励賞を受賞しました。日本学生支援機構の優秀学生顕彰事業は学術や文化・芸術活動、スポーツ活動をあげた学生を顕彰するもので、増留さんは高円宮杯創設記念第42回全日本スペイン語弁論大会においてスペイン大使賞を取めたことで奨励賞を受賞しました。今後益々の活躍が期待されます。(学生支援室 学生係)



## 聖書雑感 (六)

小西哲郎

イエスがある町におられたとき、そこに、全身重い皮膚病にかかった人がいた。(ルカによる福音書5章12節)

この「重い皮膚病」、かつては「らい病」と訳されていた。1996年のらい予防法廃止を受けて、聖書中のこれらの箇所は「重い皮膚病」に置き換えられた。「らい病」という表記がハンセン病患者への偏見につながることを懸念したのである。

から誤魔化した翻訳をすべきではない、とほくは思う。古代の文書である聖書には21世紀のわたしたちに「不適切」と感じられる表現が含まれていて当然だからである。そのことをまず冷静に受け止めなければ。

ほくに洗礼を受けた桑原重夫牧師は「聖書は差別文書である」と喝破された。

「神の言葉である聖書に誤りがあつてはならない」という「信仰」が、できる限り原文に忠実であるべき翻訳を歪めてしまう。

(学院宗教主任)

が、去年「漢語橋」に参加した福島彩子さんの写真です。私は今年、この「漢語橋」という世界大学生中国語スピーチコンテストに出場しました。

中国語を楽しもう!! というテーマのもと行われました。私は音楽とオリンピックを題材に「音楽でオリンピックを応援しよう!!」というテーマでスピーチをしました。私の結果は上位には入らず予選通過はなりませんでしたが、私の他に各選手発表する様々なスピーチや選手が披露する様々な中国のパフォーマンスを見て、改めて中国の文化はすばらしいものだと感じました。そして、それを世界各国で学んでいる学生と交流できたこともすばらしい思い出です。

「漢語橋」第7回世界大学生中国語スピーチコンテストと目立って壁に飾ってあるの



中国語コースの教室に一段と目立って壁に飾ってあるの

(中国語中国文化コース 4年 西山貴子)